



# 自治連だより

第23号



ご挨拶

鳥取市自治連合会  
会長 渡邊勘治郎

先の総会で会長に再任されました。誠心誠意尽くす所存でございますので、ご指導をよろしくお願いいたします。

一極集中は止まる事なく進み、地方の県や市では、創生のための様々な行政施策が推進され、その成果が現れつつあるものの、殆どの地域では人口減少に歯止めが掛かっておらず、高齢化率も年々高くなっています。

本県でも出生率が高い割に人口増には繋がらず、求人倍率が高いものの、県外企業への就職や大学進学等で流出する若者も多く、依然として人口減少が進んでいます。

このような中、「住みやすい田舎」総合部門で鳥取市が全国第1位との報道を見聞した時、地元を知るものとして素直に喜べない所がある一方で、そのように思われている地域に住んでいることの有り難さを感じたところです。

近年、各地区の自治会や町内（区）会では、住みたくなる「住み良いまちづくり」を目指して、各種イベントや防災・防犯活動、子どもと高齢者の福祉活動等、地区なりの様々な活動が積極的に展開されています。しかし、近隣の絆を育む自治会活動を目の当りにしながら、勝手な理由をつけて自治会へ加入しない世帯が増加している現状です。

自治連としても、加入促進や、自治会活性化の検討、情報の発信等に関する三つの委員会を設置して取り組むこととしています。また、自治を基本とする自治会・町内（区）会は皆様の組織です。それぞれの組織の益々の発展をご祈念するとともに、鳥取市自治連合会へのご協力につきましてもよろしくお願いいたします。

## 明治地区

### 住みよい郷づくりを めざして

明治地区自治会

会長 西口清壽

明治地区は、県道四十九号線を挟んで南西に細長い十三集落三百四十三世帯からなる地域です。

地区では、平成二十一年一月に「明治郷づくり協議会」を結成し、明治地区において住民が安全で活力のある住みよいまちづくりを推進するため市との連携のもとに明治地区まちづくり計画の策定及びその推進を図ることを目的に活動を展開しています。

協議会では、目的を達成するため、自治会をはじめ各種団体の協力を得



防災マップ作り（会合）



防災マップ作り（現場）

て、「郷づくり協議会の全体会」で事業を計画し、その活動を効果的に行うため五つの専門部（総務広報部、健康福祉部、防災・防犯部、生涯学習部、自然環境部）の組織で運営しています。今年度の主な事業として、森林ウォークin安蔵（健康福祉部）防災マップづくりと防災先進地の視察（防災・防犯部）星めぐりツアー（生涯学習部）コスモスロード（自然環境部）事業広報（総務広報部）を実施予定です。

また、地区の三大イベント（大運動会・夏祭り・文化農業祭）や新春講演会、明治ふるさと音頭の新しいふりつけ、手踊り手笠踊りの集いへの協力を実施しています。

自治会では、少子高齢化や過疎化が進む中で、今後とも地域の特性を生かした住みよい安心できる地域づくりを推進していきたいと考えています。

平成二十九年年度

# 定期総会

平成二十九年五月十一日、とりぎん文化会館小ホールにおいて、各地区より選出された百三十一名の代議員の出席のもと、定期総会及び講演会を開催いたしました。

講演会では、「鳥取の明治維新」〜江戸から明治へ〜のテーマで、鳥取歴史博物館 学芸員 横山展宏氏をお迎えし、興味深い鳥取の歴史の移りかわりについて、わかりやすくご講演をいただきました。

総会では、渡邊会長があいさつを述べた後、永年にわたり町内会活動に功績のあった地区会長や町内会長等を務めて退任された四十七名の方々に對し、鳥取市長及び鳥取市自治連合会長



講演会

からそれぞれ感謝状と記念品が贈呈されました。続いて、深澤市長及び金谷市議会副議長か



定期総会

らご祝辞をいただいた後、被表彰者を代表して賀露地区の山田哲彦氏から謝辞が述べられました。市政概要

では、深澤市長から「中核市移行について」の説明を受けました。

次に、議長団に西川用瀬地区会長と西尾気高地区会長を選出し、議案の審議に入り、以下の議案が承認されました。

- ・平成二十八年度事業報告並びに収支決算報告、監査報告
- ・平成二十九年年度事業計画(案)及び収支予算(案)
- ・役員承認

## 新役員

会長	渡邊 勘治郎
副会長	南部 敏
副会長	竹森 貞美
副会長	大西 隆秀
副会長	下澤 理如
副会長	土橋 周美
監事	岡田 一壽
監事	田中 雅勝
監事	安木 恭次

## 日進地区

### 南吉方一丁目

### 町内会の特色

南吉方一丁目町内会

会長 奥田 恭正

平成二十四年より、町内会長を拝命、少しでも地元のお役に立てることを念頭に活動状況を報告させていただきます。

- ①側溝の整備に着手しました。市に要望した結果、継続事業と通知があったものの十八年より途絶え、全く整備されません。再度二十四年より市へ毎年繰り返し要望しました。市は継続事業なので、要望をしなくてもすると回答がりましたが、前例もあり毎年要望をしました。その結果、二十八年度中には町内会全ての側溝の整備にこぎつけました。
- ②既存の街路灯二十四基を毎年のLED化の枠一杯実施していただきました。三十年には全灯をLED化の予定です。
- ③新規街路灯の設置です。町内環境部長が現地調査し、二十八年と二十九年に各三か所設置しました。毎月の電気代は、減少傾向です。



敬老の日「お祝いの会」



南吉方なかよし会(鳥取市)

日本海新聞掲載 2015年12月21日

- ④町内会員の増加です。四年前九階建てマンション建築中に交渉し、全四十戸の会員加入を実現しました。入居者(子供会対象者八世帯、敬老会対象者二世帯)全戸に納涼祭実施を案内しています。
- ⑤敬老会の開催です。該当参加者は多くはありません。できるだけ町内在住者を講師に選び、健康体操、糖尿病、特殊詐欺防止、書の内容、ゲーム、ビンゴ等を開催しています。
- ⑥東富安公園の花壇の整備です。公園愛護会の会長のもと、毎年子供会が主体となり、ひまわり、葉牡丹等の苗を植え付けています。今後の課題としては、町内会長のなり手が無い(高齢化、社会で活躍等)、また防災、防犯体制の具体化、消火栓の確認、高齢者の見守りなど、諸問題が山積しております。

**気高地区**

住んでいて良かったと思える村に

酒津まちづくり協議会

会長 河根裕二

酒津地区は、気高町の東部に位置する漁港を抱える一七〇戸ほどの集落で、一村で地区公民館が設置されています。酒津まちづくり協議会は、この地区公民館を事務局・活動拠点として事業を展開しています。

協議会は、生活環境部、防災防犯部、教育文化部、健康福祉部で構成されており、それぞれ事業を行っています。また、広報部でまちづくり協議会便りを年三〜四回発行しています。

生活環境部は、花植えや除草作業など地区内の環境美化の取り組みや、鳥取方式で植えられた芝生の公園の管理などを行っています。

防災防犯部では、いざという時の備えのため消火栓に点滅灯を設置したり、津波に備えた海抜表示の設置を行ったりしています。また、急傾斜地に



酒津地区避難訓練



樽谷坂環境整備

立地するところもあり、全地区民を対象にした大雨による土砂災害を想定した避難訓練を例年実施しています。ここでは、各組が避難者火訓練なども併せて行い、炊き出しも好評を得ています。

教育文化部は、「岸壁に絵を描こう」ということで、子供会の協力を得て、色鮮やかな思い思いの絵をペイントする事業のほか、地区内にある石造物や史跡などの解説板の設置、地区内の見どころマップの作成などを行っています。

健康福祉部は、地区民の健康増進のために、グラウンドゴルフ大会やスポーツ吹き矢などの軽スポーツの実施、シャンシャン体操の普及に努めています。また、集団検診の啓蒙や万歩計の貸し出しなど、常日頃の健康維持のための取り組みを行っています。

酒津地区も、少子高齢化の波は押し寄せています。地区の子供たちによって行われる国の無形民俗文化財の伝統行事「酒津のトンドウ」は少子化によ

りその継続も危ぶまれるなどの課題も抱えています。

酒津まちづくり協議会では、コンパクトなつながりを大事にしながら、住

**浜坂地区**

つどいふれあい

たすけあい

浜坂地区自治連合会

会長 米原慶三

浜坂地区は、つどい、ふれあい、たすけあいを合言葉にまちづくりを進めています。

約五十年前までは浜坂本村、出村の浜坂新田、市営住宅のひばりヶ丘、小松ヶ丘、夕日ヶ丘の小さな地区でした。昭和四十年代に浜坂の西瓜畑が宅地造成により、ニュータウン化し大規模住宅地になり、その後浜坂本村の水田も次々に宅地化され、ますます大規模住宅地となりました。当時も自治会活動もありましたが、それ程盛んではありませんでした。言い方は悪いですが、寄せ集めという感じでした。当時の役員会で、地区納涼祭をしてはどうかという意見が出ました。すると、盆は里帰りをしないとイケないから無理ではないか？という意見が出ました。当時の会長さんが、里帰りするのではなく、浜坂に来てもらう様にしなければダメ

んでいて良かったと感じられる楽しく安心して暮らせる村づくりのための取り組みを進めていきたいと考えています。

だと言われ、始めたのが、浜坂地区納涼盆踊り大会です。今年も節目の四十周年です。納涼祭ではオリジナルの浜坂音頭や河内音頭など数曲が踊られます。各町内会担当の夜店では、かき氷、ポテト、フランクフルト、金魚すくい、スーパードールなど、またPTA、体育館も夜店で焼きそば、焼鳥、ビールなど販売し、大変賑やかです。浜坂六大事業の一つ、納涼祭を通して地域づくりに少しでも役立てばと思っています。浜坂地区は現在二千五百世帯です。地域コミュニティがだんだん弱くなりつつありますが、つどい、ふれあい、たすけあいの合言葉で頑張っ



浜坂地区納涼盆踊り大会

# 平成29年度 先進地研修視察の概要



平成29年度先進地視察は、去る6月15日高松市役所において高松市コミュニティ協議会連合会と研修会を行いました。研修内容は、①高松市における地域コミュニティ施策の概要について②高松市コミュニティ協議会連合会の組織概要について③自治会加入促進事業についての3項目です。

高松市の公民館は各小学校区に1館、市内全域で52館あったが、平成18年度から全館コミュニティセンターへ移行し、生涯学習の機能は残したまま各地域コミュニティ協議会に管理運営を委託、翌19年度からは同協議会を指定管理者として、地域管理を行っています。

コミュニティセンター職員は地域雇用（センター長1名、主任1名）しており、センター事業等を検討する管理運営委員会及び生涯学習部会員は自治会員を中心とした地域コミュニティ協議会の構成員で結成し、地域の特性を生かした事業を計画、実施しています。

平成22年に「高松市自治基本条例」が施行され、その翌年「自治と協働の基本指針」を策定。地域コミュニティ協議会及び市民活動団体を市のパートナーに位置付けて、自治と協働の基本指針

には、地域コミュニティ協議会の役割、単位自治会・連合自治会の関係について明記されています。特に自治会は地域コミュニティ協議会を支える「コマの軸」にも例えられ、中心的な役割を担う重要な組織として認識されています。



自治会加入促進事業については、平成22年に「自治会加入促進の手引き」を作成、各自治会が加入促進に取り組んでいます。平成23年には、高松市及び県宅建協会と自治会加入促進の三者協定を締結し、入居者等に対して積極的な自治会加入について協力依頼しています。11月を自治会加入促進月間に定め、コミュニティ協議会・高松市と合同で作成したリーフレット等を街頭配布したり未加入世帯への個別訪問をしたりして、啓発活動を行っているそうです。

今回の研修は、予定していた時間ぎりぎりまで白熱した意見交換ができ、大変有意義な研修となりました。（文責／副会長 土橋 周美）

## 鳥取県自治会連合会の動き

### 平成二十八年年度

#### ◇中四国自治会連絡協議会

二月十日、高知市において各県連合会の代表者等約百十名が集い開催され、鳥取県自治会連合会から十四名が参加した。各県連代表が活動事例を発表し、その後意見交換を行った。鳥取県からは、地域と連携し設置された「福部未来学園」の事例を紹介した。

#### ◇響かせようトットリズム♪

とっとり元氣フェス二〇一七  
(ハワイアロハホール)

一月十四日、湯梨浜町にて開催され、鳥取県自治会連合会からは五十六名が参加した。分科会では、灘手地区の見守り活動やこども食堂の事例発表等が行われた。

### 平成二十九年年度

#### ◇第一回正副会長会

(四月二十六日、倉吉市役所)

#### ◇平成二十八年年度監査会

(四月五日、鳥取市)

#### ◇平成二十九年年度総会及び研修会

(五月二十九日、米子市役所)

#### ◎総会

・平成二十八年年度事業報告及び収支決算報告、監査報告

・平成二十九年年度事業計画(案)及び収支予算(案)

・役員選出

会長 福景 順一 (米子市)

副会長 笠見 猛 (倉吉市)

副会長 渡邊 勘治郎 (鳥取市)

理事 上橋 晃治 (米子市)

理事 北村 軍二郎 (米子市)

理事 手島 博 (米子市)

理事 松井 克英 (米子市)

理事 福井 章人 (倉吉市)

理事 齋木 英宏 (倉吉市)

理事 米田 耕作 (倉吉市)

理事 南部 敏 (鳥取市)

理事 竹森 貞美 (鳥取市)

理事 大西 隆秀 (鳥取市)

理事 下澤 理如 (鳥取市)

理事 土橋 周美 (鳥取市)

理事 田邊 忠雄 (米子市)

理事 内田 欣男 (米子市)

#### ◎研修会

テーマ：「地域福祉活動計画の取り組みについて」

講師：社会福祉法人 米子市社会福祉協議会

講師 谷口 佑介 氏

## 後記

自治連だより第二十三号の発行に際し、原稿依頼に快く応じて頂きありがとうございました。また、編集作業では広報委員の皆様には大変お世話になりました。

地区それぞれに、いろいろな問題や課題を抱えながら懸命に取り組んでいらっしゃる姿を拝察し、心が引き締まる思いが致しました。

高松市での研修会では、自治会加入促進の取り組みの本気度が伝わりました。特に行政の積極的な取り組みが参考になりました。

(広報委員長 土橋周美)